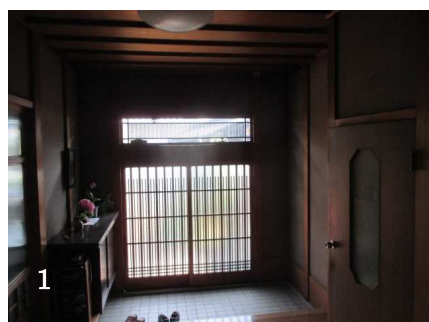




築 45 年程だが外観は立派な伝統民家。兎に角段差の多い、全体に暗いイメージの家を“明るく”“段差のない”“オープンで仕切れる”住まいを希望されての改造工事となった。

本瓦葺き＋小舞土壁の家屋の耐震診断の数値は予想通りだったが、阪神淡路大震災でも被害は殆ど無く、狂いも無く健全な状況で、小屋裏に登ると床全体に板が張られており、床下も根固めが取り付けられていた。施工前の玄関廊下①と段差のある応接室②を上吊りの可動間仕切りで繋がったひとつの部屋④⑤にし、応接⑥は庭への広がりから窓を取替えた。玄関は少し低めの無垢杉柾天井を貼り⑦上部には採光と通風の出来る窓を設置した。窓側に流し台のある台所③はホワイトの対面キッチン⑧に。和室の透し欄間は応接側の壁で塞がれた為ご主人のDIYでLED照明⑩が組み込まれた。



ており、床下も根固めが取り付けられていた。施工前の玄関廊下①と段差のある応接室②を上吊りの可動間仕切りで繋がったひとつの部屋④⑤にし、応接⑥は庭への広がりから窓を取替えた。玄関は少し低めの無垢杉柾天井を貼り⑦上部には採光と通風の出来る窓を設置した。窓側に流し台のある台所③はホワイトの対面キッチン⑧に。和室の透し欄間は応接側の壁で塞がれた為ご主人のDIYでLED照明⑩が組み込まれた。

